

「千葉県建築学生賞」による建築文化向上への貢献

千葉県建築学生賞協議会 殿

本教育活動は、千葉県内の建築系学科学生の卒業設計を対象にした表彰制度であり、1988年に始まり33年間の歴史を重ねるとともに、常に運営の改善を続けてきた。当初4大学5学科で始まった活動は、今日では6大学10学科が参加するまでとなり、大学生を中心に建築文化の普及・向上に貢献してきた。

1988年10月に日本建築学会大会が千葉県で開催されたことを契機に、千葉県建築設計監理協会（現JIA千葉）、千葉県建築士会、千葉県建築士事務所協会によって、優秀な学生・卒業設計作品に称賛とエールを贈ることを目的に「千葉県建築三会学生賞」が創設され、それが今日、「千葉県内に建築系学科を有する大学各位との意見交換・意識交流を図る場を創出すると同時に、卒業設計にスポットを当て、優秀な作品を表彰することで将来性溢れる学生たちを後押しする」という目的に拡張され、継続して活動を続けている。さらに、歴代出展者による「なの花会」が運営に参画し、協議会の一部となって審査にも参加している。卒業設計等に対して継続的に表彰を続けている活動は全国に見られるが、過去の出展者がボランティアで運営や審査の一部を担っていることは大きな特徴と言える。

2003年からは公開プレゼンテーションを取り入れ、審査はすべて公開されるとともに講評集によって幅広い教育効果が目指され、2004年からは2日間にわたり市民にも展示を公開し、投票を受け付け、2005年からは市民参加型の「市民賞」を創設して、広く展示や審査を公開することで一般社会への建築文化の普及、教育効果の拡大が図られている。現在では千葉県内の建築設計にかかわる4団体（上記団体に日本建築学会関東支部千葉支所が追加）の協力と、これらの団体から派遣される継続的なボランティアメンバー、なの花会、学生ボランティアによって審査・展示会が運営・実施されている。建築家に限らない多彩な特別審査員は漫画家や陶芸家などの多様な評価を審査に導入し、海外からの審査員も迎えることで、参加者の多面的な価値観を育むことに寄与している。

なお、今日では併設イベントとして、小中学生による「未来の建築家コーナー」や、併設展示の工業高校建築科の「建築設計作品展」が開催され、建築文化のすそ野の拡大に貢献していることも評価に値する。このような継続性、運営面の柔軟性、広い世代を対象とした「建築教育」の実践など、総合的に判断して優れたものと評価できる。

よって、ここに日本建築学会教育賞（教育貢献）を贈るものである。